



第32報（令和2年2月）

# ひらぽう

## 不定期！！コラムのコーナー

となとな利用者による、内容、文字数、文体など自由に書いていただくコーナーです。

## 道

一時期、散歩を習慣にしていたことがあった。週に1回か2回、30分から1時間くらい、近所の知らない道をただただ歩く。知らない道とはいえ、大通りに向けて歩いていけば、近所なので知っている道に大抵はたどり着いてしまう。しかし、時間内に戻れないかもしれないという状態まで迷ってしまうこともある。そんなときは不安な気持ちが頭を占めており、周囲の景色を楽しむなんて余裕は全くない。そんな思いまでして、いざ知っている道にたどり着いたとしても、やっと帰れるという安堵と自分はいったい何をやっていたんだという徒労感しか感じなかった。

ここまで書くと、なぜそんなやり方をしていたのだと思われる方もいるかもしれない。一言で表現するならば、自分の人生の追体験をしていたのかもしれない。社会復帰というゴールにたどり着けず、道に迷うばかりの自分の立場を確認していたのかもしれない。そして、いざ社会復帰ができたとしてもやっと人並みになれたという安堵と自分はいったい何をやっていたんだという徒労感しか残らない。こんな理屈をモチベーションにしていたのなら、やめてしまったのも納得と言えるだろう。また、支援してもらっている立場で何を言うんだと思われる方もいるかもしれない。それは自分でも思う。私は、そもそも歩けなくなってしまったから助けをもらう立場になったはずなのに。しかし、こうも思う。過程を楽しめるだけの前向きさや達成感が勝るほどの何かを持てるのなら、そもそもこんなことにはなっていない。とはいえ、本来の人生のゴールは死だ。そのゴールにたどり着くこと自体に意味はなく、むしろ過程にこそ意味がある。そう考えるとむしろ過程を楽しまなければ損と言えるだろう。

そのため的一步を踏み出すために、散歩を再開するのもいいかもしれない。もちろん、過程を楽しめるように道を決めて。もっとも、まずは散歩でそんなことを考えてしまう思考をどうにかした方がいいのかもしれないが。（チビ）



昨年12月13日のひらぼで年末恒例の料理イベントを行いました。その時の様子のレポートです。

今年の年末料理イベントは、宇宙をテーマにしたお菓子作りを行った。自分の料理の担当は飴細工での器の作成だった。作業自体は、水を入れた風船にまんべんなく飴をかけて、固まるまで待つだけだった。簡単そうに聞こえるかもしれないが、風船にまんべんなく飴をかけることは意外と難しく、中々均一に流れてくれなかった。なので、飴のかかっている部分を徐々に埋めるように飴をかけて作成することになった。ただ、後日自分が飴を食べていなかったことを思い出した。

飴のほかには、カップケーキとゼリーをほかの班の人たちが作っていた。ゼリーは、ただただかけた蜜が甘く、カップケーキは中のしっとり感がなかったように思う。カップケーキのクリームの色がどぎつい感じだったので、次回は彩りをきれいにできたらいいかなと思う。

後、料理はレシピ通りに作りましょう！

ペンネーム：魔球は投げないとある青年

1月29日に開催したひらぼメンバー企画のクイズ大会企画者の感想です。

先日、企画としてクイズ大会を実施しました。

当初予定表には「企画実施」としか書いていなかったにもかかわらずたくさんの方に参加していただけて嬉しかったです！

結構良い問題が出来たと思いきやあっさり攻略されたりして少し悔しかったところはありませんが、企画自体は結構楽しかったです(笑)

写真に、出題した問題の一部を載せてみました。興味がある方はチャレンジしてみてください！

クイズ大会 企画者 T

	A	B
Q1 数字は?	two	too
Q2 重いのは?	1410g	鉄5g
Q3 長いのは?	5m	501mm
Q4 歩行者用信号の下の色は?	赤	青
Q5 調味料のししせそのしは?	塩	醤油



～発行元・お問い合わせ先～

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども総合相談センター **となとな** 内）

電話：050-7102-3228 / 相談専用電話：072-843-2255 / FAX：072-846-7952

当センターでは、相談・居場所「ひらぼ」・家族の会を行っています。